

あがたメディカルホーム 看護

感染予防対策

R4.7.4 修正、追加

① スタンダードプリコーションの徹底

- ・吸引瓶の洗浄、消毒について（マスク、フェイスシールド、ビニールエプロン装着）
毎日退勤前に中性洗剤で洗浄する。
消毒は週に1回行う。
⇒ 中性洗剤で洗浄後、0.1%の次亜塩素酸 Na（キッチンブリーチ）に30分浸漬させる。
0.1%=水 1L に対し次亜塩素酸 Na キャップ 1 杯（20 ml）

② 手指衛生の励行（掲示物でタイミングや手技を確認、意識して行う）

- ・通常の1処置、1手洗いに加え手指アルコール消毒を行う。
- ・3か月毎に全職員手洗いチェッカーで自己チェックする。5段階評価で3点以下の場合は看護師より手洗い指導を受ける。
手洗い評価基準
1点：手掌・手背に洗い残しが目立つ
2点：手背全体に洗い残しが目立つ
3点：爪～指先 1～2 か所＋他 1 か所洗い残しあり
4点：爪～指先のみ 1～2 か所洗い残しあり
5点：洗い残しなし
- ・体液、汚物に触れる場合は必ずプラスチック手袋を使用する。交差感染しないよう1行為毎に手袋を交換する。ケア終了後は両肘まで手洗いを行う。同じ手袋で他の入居者様や利用者様のところへ行かない、触らない。

③ PPE（個人防衛具）の選択と正しい着脱を行う

- ・勤務中は必ずマスク（不織布）を着用する。マスク表面には触れない。
 - ・吸痰処置や口腔ケア、陰部洗浄時はフェイスシールド+ビニールエプロンを必ず使用する。
※ビニールエプロンは単回使用、使用後は中表に丸めてごみ箱に廃棄する
 - ・PPE 対応中の入居者様のケアや検温をする際にはガウン・フェイスシールド（個人持ち）・キャップ・手袋・足袋を装着。陰性と判定されたらビニールエプロン・フェイスシールド・手袋での対応に替える。
 - ・新型コロナウイルス感染症陽性者と関わる際は入室前にPPEフル装着し、毎回全て廃棄する。（使い捨てのフェイスシールドを使用、フェイスシールドも含め居室内の足踏み式ゴミ箱へ廃棄）
- ※コロナ陽性者以外（PPE 対応者含む）と関わる際のフェイスシールドは、個人の物を使用する。
（フェイスシールドは昼休憩および勤務終了時は表面を次亜塩素酸水（アルコールでも可）で拭き

取る。

④ 発熱時の対応

- ・毎日、非接触型体温計にて入居者全員の検温を行い、37.0°C以上の場合は直ちに院長に報告、PPE 対応開始（項目③参照）
- ・居室内隔離とするため、必要に応じてポータブルトイレ設置
- ・居室内に足踏み式ゴミ箱を設置、使用する。
- ・HEPA フィルター付き陰圧式空気清浄機を熱発者の頭側に設置
- ・原則、解熱後 3 日間経過で PPE 対応は解除とする。
※解除のタイミングはケースバイケースで院長指示にて変更になる場合あり。
- ・コロナワクチンの副反応による発熱の場合は PPE 対応は行わない。

⑤ 環境面への配慮、面会、外出について

- ・国内、地域の感染状況に応じて、院長の指示に従って面会を行う。
- ・終末期の入居者様の直接面会については、院長に相談。
- ・緊急事態宣言及び蔓延防止等重点措置の発令中は、緊急性のない受診は控える。どうしても必要な場合は、ホームのスタッフが送迎する。（家族と接触しないように）
- ・親族の葬儀への出席等、やむを得ない場合の外出は院長に相談する。必要時院長の指示にて隔離や NEAR 法実施。

⑥ 感染症に対する正しい知識を持つ

⑦ ①～③を他職種へ指導し、全職員が感染対策を正しく行えるようにする

- ・PPE の脱着に不安のあるスタッフがいる場合は指導する。

⑧ 自己の健康管理

- ・不要不急の外出は避ける。
- ・休みの日も不織布マスクを使用する。
- ・家庭内感染の予防に努める。
- ・自分の家族や、接触歴のある人がコロナウイルスに感染したり、濃厚接触者となった場合は速やかに報告する。

<出勤時の検温で 37.0°C以上の発熱があった場合>

- ・腋窩式の体温計を渡し、車に戻ってもらう。以後は電話で対応する。